

## 8 月 定 例 教 育 委 員 会 会 議 録

- 1 開 催 日 平成 29 年 8 月 3 日 (木)
- 2 開 催 場 所 新館 10 階 大会議室
- 3 出席した委員 田淵教育長、吉田委員、森委員、坂元委員、廣岡委員
- 4 出席した職員 高井教育総務部長、大西教育指導部長、  
井部教育指導部調整担当部長、  
平田教育総務部次長、  
小西教育総務部中学校給食準備担当参事、  
野村教育指導部スポーツ振興担当参事、  
石川教育指導部学校教育担当参事、  
吉田教育総務課長、竹中学務課長、  
山本学校教育課長、長瀬青少年育成課長、  
中田教育研究所長、  
山野教育総務課副課長
- 5 傍 聴 者 25 人
- 6 議 事 の 要 旨
  - 開 会 午後 2 時 30 分
  - 会議録署名委員指名のこと  
吉田委員に決定
  - 7 月 定 例 教 育 委 員 会 の 会 議 録 報 告 承 認 の 事 項  
(事務局から会議録朗読報告)  
承 認
  - 会議公開の可否決定のこと  
全ての議事を公開することに決定

(協議事項)

1 加古川市立川西幼稚園の廃止について

(教育総務部次長から説明)

原案可決

委員：川西幼稚園が認定こども園に移行するとのことであるが、その建設予定地や、園児数がどう変わるかなどについて、改めて確認させてもらいたい。

事務局：従来の川西幼稚園の園舎を一旦取り壊し、現在、その敷地に新たな認定こども園を建設しているところである。認定こども園に移行するに当たり、特に園区等を変更する予定はないため、川西幼稚園と川西保育園の子どもたちについては、そのまま当該認定こども園を利用することが可能である。

教育長：今回の川西幼稚園に続き、平成31年度には東神吉幼稚園を認定こども園化することが予定されているが、それ以降については現時点では未定であるとの認識で間違いはないか。

事務局：そのとおりである。

2 加古川市立学校校区審議会委員の委嘱又は任命について

(教育総務部次長から説明)

原案可決

委員：本市の教育行政の特色の一つとして「中学校区連携ユニット12」が挙げられるが、1つの小学校が2つの中学校に分かれて進学する地域では、ユニット活動のメリットを十分に享受できない可能性がある。当該審議会において校区の議論を行う際には「中学校区連携ユニット12」の推進を重視してもらいたいと考えているため、効果的な資料の配付や、学校教育課指導主事からの説明など、委員の方が「中学校区連携ユニット12」について十分に理解を深めることができるような取組を検討してもらいたい。

教育長：確かに、平岡地区や神野地区など、小学校区と中学校区にねじれが生じている地域があることは事実であり、課題として認識している。このことについては、校区審議会の場でも、事務局から実情や問題点を説明する機会があったように思うが、これまでの状況等を説明してもらいたい。

事務局：平成28年度に実施した校区審議会において、校区のねじれについて説明したところ、委員からも検討の必要性についてご意見があった。そのような状況を踏まえ、昨年度に城の宮団地地区の保護者に対して説明会を実施したところ、進学先の自由選択制など、弾力的な運用を希望する声をいただいたという状況である。今年度の校区審議会においては、城の宮団地地区の取扱いについて審議するとともに、ユニット推進の観点からも議論を深めることができると考えている。

委員：平岡地区に関しては具体的な議論がなされており、一歩ずつでも望ましい環境に近づいているものと考えている。ただ、ユニット推進は全市的な取組であるため、平岡地区だけにとどまらず神野地区のねじれ解消についても目を向けるなど、議論の広がりをもせてもらいたいと考えている。

委員：城の宮団地の町内会から出された要望書に「指定校区を平岡南中学校としたまま、平岡中学校へ就学可能となるよう」といった表現があったとのことであるが、これは個人の自由な意思で進学先を選択する制度を要望されているとの認識でよいのか。

事務局：そのとおりである。「城の宮団地の児童については少人数だけが平岡南中学校に通うこととなるため、教育的な配慮から弾力的に進学先を選べるように」とのことであり、今後、その要望内容を校区審議会に諮る予定である。

委員：仮にその要望を採用した場合、極端な例として隣同士の子どもが異なる中学校に通うことになるが、平岡中学校を選択した子どもについては、本来のユニットに含まれることとなるため、部分的な解消にはつながるものとする。

教育長：今年度で開催する校区審議会においては、先ほどからの意見を踏まえた効果的な議論がなされるよう、事務局において準備を進めてもらいたい。

### 3 平成 30 年度使用義務教育諸学校教科用図書の採択について

(教育指導部学校教育担当参事から説明)

**【道 徳】** 「廣濟堂あかつき」の教科用図書を採択することに決定

教 育 長 : 採択の協議に入る前に、今回採択することとなる道徳の教科用図書の使用期間を教えてください。

事 務 局 : 平成 30 年度及び平成 31 年度の 2 年間である。

委 員 : 道徳という教科における子どもたちの評価方法について、現在わかっている範囲で教えてください。

事 務 局 : 授業を通じての児童の心情の変化や、記述内容から読み取れる児童の変容を評価する予定である。

教 育 長 : 各委員におかれては、事前に教科用図書を読み込んでいただいているが、第一印象等について簡潔にご意見をお願いしたい。

委 員 : 近年は、全教科において「書くこと」や「考えること」の重要性が叫ばれている。新たに教科化される道徳においても、子どもたちが自分の考えをどう表現し、それをどう整理することになるのかという過程も考慮しながら、それぞれの教科用図書を見させていただいた。授業展開の中での教員の板書やそれに応じた児童側のノート作成は難しくなることが予想される中で、数社において別冊ノートの提供が見受けられた。別冊ノートを活用することにより、各単元の論点が整理され、理解が進むのではないかという印象を受けた。また、いじめ問題を含め、発達段階に応じて各領域が適切に取り扱われているかどうかという点にも注目した。

委 員 : 私は第一印象として、盛り込まれている要素が多く複雑であるように感じた。道徳は答えに正解がある教科でもなく、児童が自分自身の考えを構築する経験を積むことが重要だと考えている。そのためには児童が抵抗なく読み込めるシンプルな教材の方が適しているのではないかと感じた。

委員：教科用図書は「子どもたちが使いやすいこと」と「教員が教えやすいこと」の2点が重要な要素であると考えており、今回もその観点から見させてもらったが、やはり別冊ノートが付属しているものの方が、お互いに理解を深めやすいのではないかと感じた。また、道徳には「自分のこと」「人とともに」「みんなと一緒に」「自然と触れ合う」という4つの領域があるが、教員はどの教材がどの領域に対応しているかを考えながら教える必要があるとともに、学ぶ側の児童もそのことに気づいていく必要がある。それぞれの教科用図書を見たところ、日本文教出版は目次に色分けがしてあり4つの領域が一目瞭然であるのに対し、廣済堂あかつきの目次は白黒であり、直観的に4つの領域を理解することが難しいと感じた。また、学研教育みらいと東京書籍は、最後のページにおいて各教材と4つの領域との関連を表に整理しており、印象に残った。

委員：道徳については初めての教科用図書導入ということもあり、各出版社において力を注いで内容を検討されたことが随所にみてとれた。道徳を勉強することになった経緯を含め、導入部分がしっかりと設けられていることも興味深かった。また、同じ教材を取り扱っていても、挿絵によって教材全体の印象が大きく変わってしまうことを痛感し、挿絵の重要性を再認識した。近年は、見やすさを向上させるために教科用図書のサイズが大きくなってきており、子どもたちの持ち運び状況が少し気になった。採択に関しては、やはり児童が使いやすいことを重視したいと考えており、子どもの発達段階に応じたボリューム感に配慮していることが必要ではないかと考えている。

教育長：全ての出版社において、ガイダンス的な役割を果たす導入部分が充実していると感じた。また、いずれの教科用図書にも写真や挿絵が多用されていることなど、児童の関心を引くような工夫が盛り込まれていることを実感した。いじめ問題のことなど、道徳が教科化された背景を踏まえ、いのちを大切する気持ちや思いやりの心などを育む内容がしっかりと盛り込まれている点も注目すべき点であった。次に、目次についてであるが、一目で直観的に各教材のねらいがわかるものもあるが、子どもによっては逆に結論に気づいてしまい、授業の中で「いじめはいけない」「他人を大切に」「ルールは守らなければならない」ということを安易に発言して終わってしまうことが懸念される。「教員の力量による」といってしまえばそれまでであるが、道徳の授業で大切なことは、実際の日々の生活の中で、学んだ内容をどう生かすことができるかということである。そのような観点から言えば、教材ごとのねらいが一目瞭然で把握できる目次については、一長一短であるようにも感じた。なお、いじめ問題については、直接的にいじめを取り扱う教材や、間接的な心の育成を意識した教材があるが、それらがバランス良く配分されていることが重要な要素であると思っている。

- 委員：東京書籍では、いじめに関して「第一次教材」「第二次教材」という区分がなされており、直接的、間接的な整理がなされているように見受けられた。日本文教出版では、各学期においてそれぞれいじめ問題が取り上げられており、適宜学習ができる配慮がなされているように感じた。教育出版では、「モラルスキルトレーニング」といった新しい形式を取り入れており興味深かった。廣済堂あかつきでは、本教材と関連付けて活用する別冊ノートが「心の記録」になるなど、工夫が見られた。
- 委員：最初の導入部分に、教科の目的等を丁寧に掲載している出版社が多く見受けられた。教科用図書の体裁という点では確かに目的等があった方が整うことは理解できるが、1年生の段階ではそこまで踏み込んだ内容は不要であるようにも感じた。
- 教育長：日本文教出版の1年生の教科用図書を見ると、確かに最初に目的等がぎっしりと盛り込まれている。書かれている内容は非常に賛同できる文章であるが、発達段階に応じたボリューム調整があってもよかったように感じた。
- 委員：確かに学年ごとの優劣が生じている場合もあるが、最終的には出版社を採択することとなるため、総合的に評価する必要がある。そのような中で別冊ノートがあるということは一つの大きな意味を持っていると考えている。また、教育出版と廣済堂あかつきには、偉人の伝記が多く掲載されており、その点も特色となっているように感じた。その中でも廣済堂あかつきは女性の偉人の比率がより高く、望ましいのではないかと思った。
- 教育長：学校図書と日本文教出版と廣済堂あかつきの三社において別冊ノートが提供されている。児童を評価するに当たり、蓄積された意見の内容や授業を通じた変化を汲み取る必要があることを踏まえると、やはり別冊ノートがあるという点の一つのポイントであると考え。その次の段階としては、別冊ノートの使い勝手を分析していく必要があるが、選定委員会からの報告によると、「学校図書と日本文教出版の別冊ノートは記述欄の領域が少ない」という意見がある一方で、「廣済堂あかつきの別冊ノートは教科用図書と完全に整合が図られている」という意見があった。

- 委員： 廣済堂あかつきの別冊ノートでは、各教材が4つの領域ごとに再整理されており、振り返って学習する際に領域ごとの関連性を把握し直すことができる点が素晴らしいと思う。日本文教出版の別冊ノートには友達の見を書き欄があり、視点として非常におもしろいと感じた。学校図書の読み物教材では、問いかけが無い点が少し残念なように感じた。ノートを自作することを否定するわけではないが、事後に振り返って学習する際に思うように整理が進まない場合がある。
- 委員： 保護者の観点から言うと、子どもたちの評価方法という面で少し不安があるが、別冊ノートがあれば一つの指標になると思うので活用してもらいたいと思う。また、1年生の時から別冊ノートに書き込んでいくことで、効率的に自分の考えをまとめる力が身に付いていくのではないかと感じた。
- 委員： 学研教育みらいは、各単元の主題名を表示しない手法をとっており、子どもたちの考えを促そうとしているが、その手法は小学生には少し厳しいように感じた。また、「スポーツ」や「三人の人物」など、学年ごとに設けているテーマに関連性がない点も少し気になった。光文書院は、設問が多い一方で回答欄がほとんどなくノートに頼らざるを得ないので、低学年の児童が苦勞することになるのではないかと感じた。光村図書出版は、新しい教科であるにも関わらず、従来の他教科と同じような構成になっている点が気になった。
- 委員： 2年後には実際に使用した経験も踏まえ、調査員による改めての分析がなされることになるが、道徳が初めて教科化される現時点で言えば、別冊ノートがあることの意義は大きいのではないかと感じる。近隣市町に比べて学校数が多い本市においては、学習内容のバラつきを少なくする意味でも別冊ノートは必要だと感じている。別冊ノートに焦点を当てて検討すると、領域ごとに再整理されているという点で学校図書と廣済堂あかつきが一步リードしており、その中でも廣済堂あかつきは記述欄の数や広さの関係から非常に使いやすいものになっていると感じている。
- 委員： 廣済堂あかつきはシンプルで非常に読みやすく、子どもたちも使いやすいのではないかと感じた。またシンプルだけでなく、別冊ノートでは領域ごとに再整理されるなど、振り返り学習が行いやすいような工夫もなされている点が良かった。

委員：このたびの採択ではそれほど重視されていないが、やはり地域教材が活用されていることも一つのポイントであると考えている。その点で、教育出版には兵庫県にまつわる教材が多く掲載されており、関心を持ちやすいものになっていると感じた。ただ、一般的には35程度の教材が掲載されている中で、20前後の教材のみとなっていたため、教える側に工夫がいるのではと感じた。学校図書では「各地域の素材に差替可能」という表現があり、検定のことも含め少し気になった。

委員：確かに教育出版は教材の数が少ないが、逆に言えば一つ一つの教材に多くの時間がかけられるので、より深い議論ができるとも言える。そのようなねらいも理解できるが、やはり教える側にそれなりの準備が必要になるなど、負担が増えることも予想される。

教育長：現場では、各学校の実態や課題に応じて計画を立てていくため、教材が少ないことが一概にデメリットになるかどうかは難しいところであるが、教材が多いと選択肢が増え、計画を立てやすいのは事実である。

教育長：多数の意見がある中で、ある程度候補が絞られてきているようにも思うが、そろそろ結論に向けた整理を進めていきたいと思う。

委員：教材の下段に注釈があることや、学習の道筋が示されていることも含め、廣済堂あかつきが一番使いやすいように思う。

委員：廣済堂あかつきは、発問のタイミングや段落の分け方などの細かい点もよく考えられており、加古川市の教育に使ってほしいと思う。

教育長：これまでの議論を踏まえる中で総合的に判断すると、平成30年度から使用する道徳の教科用図書は、廣済堂あかつきが望ましいとの整理で良いか。

各委員：（異議なし）

教育長：それでは道徳における平成30年度使用義務教育諸学校教科用図書については、廣済堂あかつきの教科用図書を採択することに決定する。

○ 次期定例教育委員会予定日のこと

9月14日（木）午後2時から開催することに決定



○ 教育長諸報告

(1) 平成 29 年度まちづくりオープンミーティングの実施状況について

全学年 1 クラスの状況となっている 5 小学校区において、まちづくりオープンミーティングを実施した。それぞれ 1 時間半程度の時間であったが、保護者の方と直接意見交換を行うことができる貴重な場であった。参加者数等について簡単に報告する。

(2) 平成 29 年度播磨東地区教育長会議について

7 月 24 日（月）に加古川総合庁舎において開催された。教職員の勤務時間適正化や、新学習指導要領の全面実施等について協議を行った。

(3) 平成 29 年度播磨東地区教育委員会連合会研修会について

7 月 27 日（木）に高砂市において開催され、吉田委員及び坂元委員とともに参加した。兵庫教育大学大学院の浅野教授から「人材育成について ～教職員が育つ職場づくり～」と題して講演があった。外部の方との交流の重要性、目標管理の適正実施、風通しの良い職場環境の構築といった点をポイントとしてご講義いただいた。

○ 教育委員諸報告

〔吉田委員から〕

(1) 平成 29 年度播磨東地区教育委員会連合会研修会について

後輩の教員が先輩の授業風景を観察すること等も含め、先輩が後輩を丁寧に指導し、効果的な育成を図ることは、組織として非常に重要なことであると思う。ただ、一方で勤務時間の適正化も課題として挙げられているため、バランスを考慮しながら知識や技能の伝承を適切に進めていってほしい。

〔坂元委員から〕

(1) 平成 29 年度播磨東地区教育委員会連合会研修会について

浅野教授の講演では「教職員については、採用後 3 年間の育成が重要」とのお話が印象に残った。採用後 3 年間の期間においては、様々な方と接触する機会を積極的に設けてほしいと思う。

〔廣岡委員から〕

(1) 教員免許状の更新について

今年度も教員免許状の更新講習が始まっている。免許状の更新は非常に重要なので、遺漏のないよう適切な指導してほしい。

○ 教育指導部長諸報告

(1) 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会に係る本市の取組状況について  
東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会について、現在の進捗状況について報告する。

(2) 中学生の全国大会出場について

平成 29 年度全国中学校体育大会が、8 月 17 日から九州ブロックで開催される。  
また、全国大会出場選手激励会を 8 月 16 日に開催する。

委員： 激励会の際には、運営スタッフとして尽力していた中学生の存在や、各競技においてスポーツマンシップが徹底されていたことなど、勝敗以外の部分にも随所に教育的意義が見受けられていたことを改めて伝えてもらいたいと思う。

(3) 第 27 回加古川市中学生海外派遣について

姉妹都市であるニュージーランドのオークランド市に、市内の中学生を 10 名派遣する。

(4) 学校園訪問の日程調整について

学校園訪問(後期)を 9 月 4 日から開催する。

(5) 平成 29 年度 はぐくみの旅の実施について

「平成 29 年度 はぐくみの旅 ～日帰りバス旅行～」が 8 月 25 日(金)に実施される。

(6) 平成 29 年度 加古川市教職員研修会について

平成 29 年 8 月 18 日(金) 13 時 50 分から、教育委員会と校舎長会の共催で開催する。

(7) 加古川市内小学校教諭によるアンケートを書き直させたと疑われる事案について

加古川市内小学校教諭が、教室内で実施したアンケート内容について、一部、書き直させたと疑われる事案が発生した。

以上、7 件について報告

○ 閉 会 午後 5 時 15 分 (午後 3 時 25 分から午後 4 時までには休会)